

## 中国 IT 企業視察ツアー北京レポート

日本コンピュータシステム販売店協会（JCSSA）は、2002 年以來 2 回目となる「中国 IT 企業視察ツアー」を行った。今回は北京地区に絞り、7 月 7 日に中国最大手の SIer/ ディストリビュータのデジタルチャイナ（神州数碼）グループや富士通を訪問した。翌 8 日はレノボやセキュリティ関連ベンダーの飛天などの企業を訪ねて交流を深めた。

訪問先の一つであるデジタルチャイナグループは、今年で設立 10 周年を迎える中国有力ベンダー。当初はハードウェアのディストリビューションで事業基盤を構築し、その後、SI 事業を立ち上げて業績を伸ばしてきた。JCSSA 訪問団を迎えた神州数碼信息服务集団の何文潮副総裁は、「今の主力事業は情報サービス」と、ソフト・サービス事業を重視する姿勢を明確にした。



今回の視察ツアーで、デジタルチャイナグループやレノボグループとの橋渡し役を担った



キング・テックの王遠耀社長は、「中国有力ベンダーとの関係強化は、中国市場に進出するにあたってとても重要」と、地場ベンダーとのパートナーシップの促進が中国ビジネスにおけるカギになると指摘。デジタルチャイナの何副総裁は、「視察団との交流を通じて、JCSSA のことを知ることが

できた」と、今後のより一層の関係強化に期待をにじませた。

2 日目に訪問したのは、レノボと中国有力セキュリティベンダーの飛天誠信科技で、着実に規模の拡大を図る中国地場 IT ベンダーの取り組みを視察した。

レノボに到着した JCSSA 視察団一行は、創業から IBM パソコン部門の買収、グローバル展開までのレクチャーを受けた。



出迎えたレノボの蘭嘉・カスタマーブリーフィングスーパーバイザーは、レノボの中国名である「联想」の由来に触れ、「当社創業時の1980年代、米国から来たコンピュータは漢字処理ができなかった。そこで漢字入力ボードを開発し、これに変換予測機能をつけた。ユーザーが次に入力する漢字を“联想=連想”する機能で、顧客から絶大な支持を獲得した。これが、その後の社名となった」と話した。

飛天誠信科技は、電子証明書の格納 USB キーやワンタイムパスワードトークンを使用した認証強化システムなど、幅広いセキュリティソフトやサービス、USB（トークン）認証製品などを開発するセキュリティベンダー。黄煜 CEO 自らが視察団にプレゼンテーションを行い、このなかで「ネットバンキングの発展に伴い、金融機関を中心に高度なセキュリティが求められている」と中国市場の需要動向を語った。国土の広い中国ではネットバンキングやオンライン取引の市場が拡大しており、金融商品を取り扱うセキュリティ市場が急成長しているという。



一行は、第2回中国 IT 企業視察ツアーの3日間の企業訪問を無事終え、帰国した。今回のツアーは大変好評であったため、次回も計画予定である。

(文章作成 BCN)